

二〇一四年九月五日

子規句碑に見ゆ萩叢かき分けて
ボクサーのごと鎌挙ぐる蟪蛄かな

よし子
よし女

二〇一四年八月三〇日
中腹に白き尖塔秋の山
せいじ

二〇一四年九月四日

庭掃けば箒の先をばった飛ぶ
もたれ合ひ百余の羅漢秋を聞く

あさこ
ひかり

二〇一四年九月三日

句碑公園秋の七草数えけり

かず

二〇一四年九月二日

と見る間に増ゆる水輪や時雨来る

ひかり

二〇一四年九月一日

鳥渡る寿永の悲話の海越えて

宏虎

道の辺の石も仏や草の花

雅流

二〇一四年八月三一日

野辺の葬色なき風に見送りぬ

はく子

千灯のうしろは深き虫の闇

よし子

毎日句会みのる選・二〇一四年九月七日